

## シンポジウム概要

平成24年度に「子どもの夢と希望をかなえるために～子どもの貧困を断ち切る支援とは～」と題し、シンポジウムを開催した。

当日は、子どもの貧困を巡る問題について有識者、支援を実践している方、行政がそれぞれの立場から講演し、パネルディスカッションを行った。

### (1) 開催概要

日時：平成24年7月31日(火)13:30～16:20

会場：ホテル横浜ガーデン 4階アイリス

次第：

開会挨拶

菊池 善信（県保健福祉局長）

第1部 シンポジウム

シンポジスト

岡部 卓（首都大学東京都市教養学部教授）

○当事者の「声」を聴くことの意義

阿部 彩（国立社会保障・人口問題研究所社会保障応用分析研究部長）

○データに見る子どもの貧困

藤井 智（NPO法人文化学習協同ネットワーク）

○「協同ネット」の子ども・若者支援

菊池 健志（県生活援護課グループリーダー）

○ケースワーカー関係機関調査にみる事業展開のポイント

第2部 パネルディスカッション

パネリスト

○ 第1部シンポジスト

○ 相原 幸子（県足柄上保健福祉事務所子ども支援員）

コーディネーター

○ 小川 恭子（県生活援護課長）

参加者：183名

（内訳）福祉事務所関係者99名、教育関係21名、NPO法人12名、一般県民17名、行政関係者8名、福祉施設職員7名、県議2名、報道関係5名など。

注：敬称略。所属・役職は当時のもの。

## (2) シンポジウム資料抜粋

### 当事者の「声」を聴くことの意義

岡部 卓（首都大学東京 都市教養学部 教授）

#### なぜ当事者の「声」を聴くのか

##### 1 なぜ健全育成プログラムを策定するのか

- 子どもの置かれた経済的・社会的・文化的環境に着目
- 子どもの育ち・学び・巣立ちを支援する支援
- 社会性を高めると共に教育・技能習得を通して将来の社会や生産（労働）の担い手の育成—社会・経済の底上げに寄与
- 納税者・社会保障の担い手の増大、生活保護費の圧縮等を通して財政的に寄与

##### 2 健全育成プログラム策定に当たりなぜ当事者の「声」を聴くのか

- 養育者・子どもたちは、どのような環境にあるのか（状態）。
- 養育者・子どもたちは、現在の状態に対し何を思い・何を望んでいるのか（現状に対する認識）。また将来に対しどのような展望を持っているのか（将来に対する認識）
- 当事者が最も政策・ソーシャルワーク実践とそれを運営実施する行政（非営利セクター・営利セクター・行政セクター）に対し経験的に精通する提言を行うことができる。

#### 当事者アンケートを通してわかったこと、進めなければいけないこと

##### 1 今後進めなければならないこと

(1) 当事者、支援者の声を反映した自立支援プログラムの開発

(2) 評価システムの確立

- 評価指標の開発
- 当事者評価、支援者評価、第三者評価

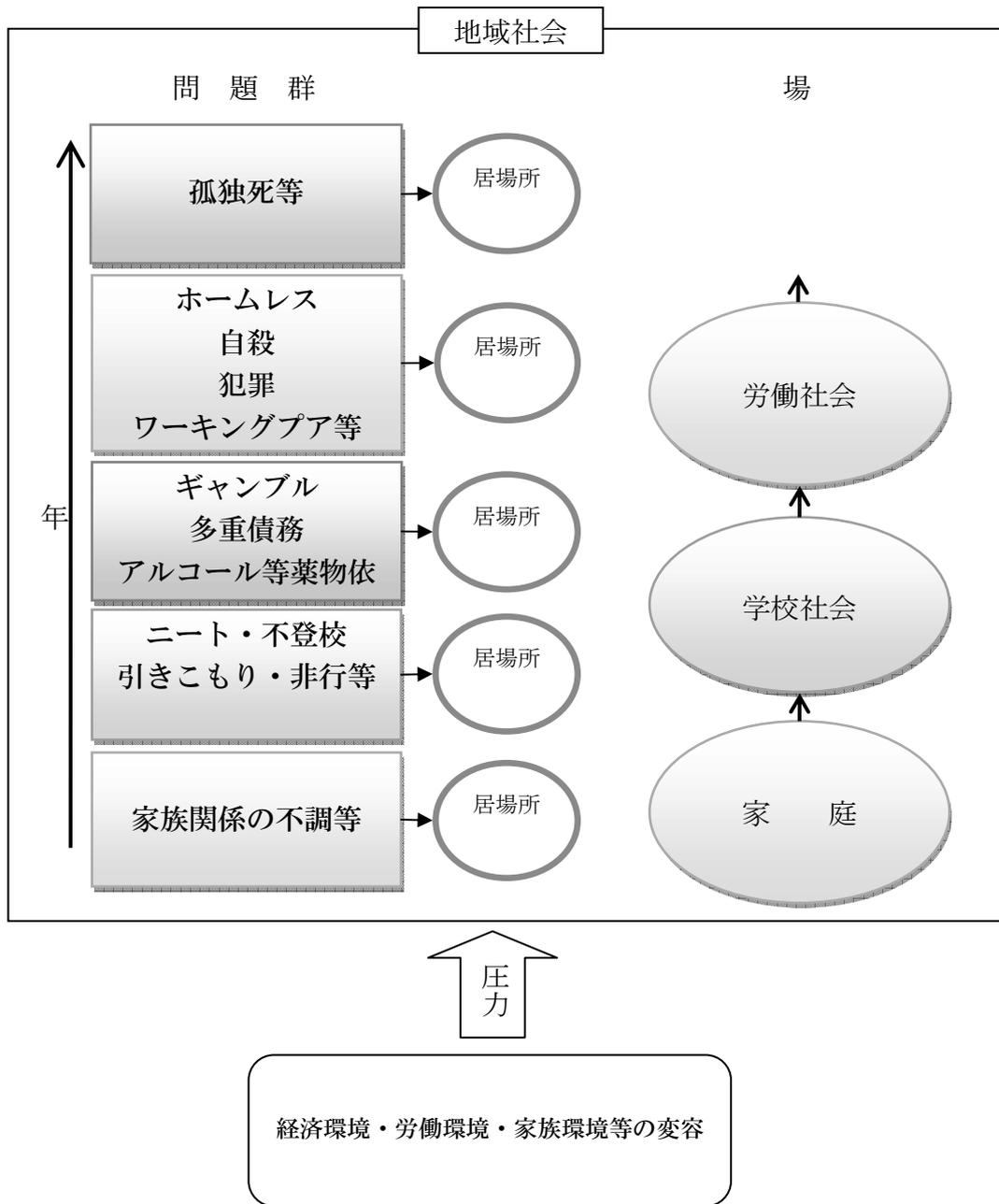
(3) 人材の育成

- 当事者に寄り添う支援者
- 専門性（個人・組織）の向上

(4) ネットワークの構築

- 福祉—教育—労働との連携・協働
- 家族—地域—職域との連携・協働

〔図1〕 現代の生活問題の態様



(岡部卓 作成)

